

第2回「こども条例(仮)」を考える市民ワークショップ

【日時】 令和5年12月19日(火) 午後19時00分～20時40分

【場所】 市役所地下 市民ホール

【出席】 30名
市民26名(うち3名Zoom)、事務局4名

【概要】

令和6年度「こども基本法」に基づく市の「こども計画」の策定を予定するなか、その前段階(前提)として市議会から政策提言も受けた「こども条例(仮)」の整備に向けた検討があるべきと考えたもの。

約1年間をかけ、市民の参画や関与を得て、より良い取組み内容とするよう、誰でも参加できる市民ワークショップとして第2回目を開催した。(毎月1回程度開催を予定)

【詳細】

1. 開会あいさつ(子育て支援課長)

第1回WSでいただいた色々な意見は、第2回にもできるだけ取り入れている。

例えば、建物を建てるにも、地盤をしっかりと固めてからでないとい良い建物が立たないため、まだ視界良好とはならないかもしれないが、着実に進めていきたいので、着いてきてくださると幸い。

2. 自己紹介(各自から氏名、所属団体など)

3. 資料説明(子育て支援課長)～意見交換

テーマ「こども基本法」

スクール形式で全体の説明を受けた後、各自、希望する梅干、ツナマヨ、明太子の3つのグループに分かれて、意見交換を行った。

①今日のテーマについて

②各立場から目指す社会の実現に向けて

最後、グループ毎にどのような話が出たか、全体で共有して終了した。(別紙のとおり)

次回第3回は、1月24日(水)同時刻、同会場で開催予定

意見のまとめは別紙のとおり

以上

I. 今日のテーマについて

<概ね肯定的意見>

- ・子どもに関する法律などを知れて良かった。
- ・こども基本法について、詳しく知る機会がなかったので、知ることができて良かった。
- ・こども中心の法律や条例ができることで、明確になるものがあると感じた。
- ・子どもの権利条約に比べて、自分たちに近いものになったと感じた。
- ・こういった内容も頭に入れて、支援しなければならないと感じた。
- ・たくさんの課題が見えてくるなど、今日のワークショップに参加できて良かった。
- ・市の宝である子どもたちの未来のための第一歩として、応援していきたい。
- ・子どもに関わる仕事をしているので、こども条例に参加していきたいし、まずは色々なことを学びたい（同じ職場の職員は関心が薄い様子）。
- ・色々な意見が飛び交うワークショップが大好きで、皆さん素晴らしい。

<理解度>

- ・難しかった（多数）。
- ・子どもが参加できるとなると内容が難しい。
- ・子どもだけではなく、大人でも少し難しいと感じた。
- ・子どものことについて、関心を持ち、理解を深めるためには、もう少し分かり易くしてほしい。
- ・文章が難しく伝わりにくい。
- ・ふわっとしていて分かりにくい。
- ・説明が長かった、書いてある内容は読めばよい。
- ・キーワードが多く、子育てのことなのか、子どものことなのか、分かりにくい。

<こども条例に関する意見>

- ・こども条例は必要である。
- ・こども条例では、障がい児のことについても盛り込んでほしい。
- ・こども条例とこども計画の違いは何か？→こども条例は理念など大まかな内容で、なかなか変更できないが、計画は数値目標を含む細かな内容で、5年毎など定期的な変更が予定されている。
- ・こども計画と具体的施策の違いが今一つ分からない。
- ・子どもを見ていく構造がないため、こども条例をきっかけに地域ぐるみの取組みをすすめられると良い。
- ・こども条例を定めて終わりではなく、常に変化、進化していく必要がある。
- ・こども条例を作るため、たくさんの方に関わってもらいたい。
- ・こども条例などについて、市民への啓蒙が重要となる。
- ・こども条例を作る中心となる人が、立場を超えて、個人の価値観も共有できると良い。
- ・こども条例は、誰もが納得できるような内容となり、全ての市民に知られることが大切となる。

<ワークショップの進め方など>

- ・このワークショップの具体的なゴールを知りたい。→市は1年間かけて色々な意見を盛り込んで、こども条例を作りたい。
- ・この意見交換は、どこまで反映され、条例を作る部分のどこに参加させてもらえるのか→条例の案文を市が作り、その全部に対して皆で手直しして完成させるのではないか。
- ・意見交換が目的なのか、周知が目的なのか。
- ・地盤固めが地味なのは分かったが、なぜ今、地盤固めが必要なのかを知ったうえで関わると印象が違ってくと思う。
- ・毎回、誰かが決めたこととなり、後から「そうではなかった」となってしまう。

- ・市として、意見のフィードバックをしっかりとしてほしい、本当に意見が反映されるのか分からない。
- ・市のパフォーマンスに見えてしまう、参加するモチベーションが続かない。
- ・このワークショップの存在をもっとアピールできると良い。
- ・親子でワークショップに参加できる機会があると良い。
- ・もう少し少人数での話し合いが良い。
- ・このワークショップは興味がある人しか参加していないが、興味のある人だけで進めていく内容ではないため、学校や保育園、施設などで話し合える機会も作ってほしい。

<意見聴取>

- ・参画する機会の確保が必要となる。
- ・子どもの意見を吸い上げてほしい。
- ・子どもはいつから参加するのか。
- ・保育園児たちにもそれぞれの考えがあるが、どのような形で持っていけるのか。
- ・もっと幅広い意見が必要となる。
- ・ニーズがあるのは当事者（保護者）のため、実際に子育て中の市民に参加してもらい、少しでも知ってもらえることが大切と感じた。
- ・当事者である子どもの参加が少ないが、19時からでは参加が難しい。
- ・この部分は子どもの意見が活かされたということがあったと良い。
- ・知らない人の方が多いことが問題のため、意識の高い方だけで議論する場でない方が良い。
- ・こども基本法第11条にある「自治体は、こどもやこどもの養育者、関係者の意見を反映するための措置を実施」について、どのように聞いて、本気でどのように反映させるか、仕組みを作る必要がある。
- ・早い段階で、子ども達に知られる機会があると良い。
- ・気軽に参加できる機会があると良い。
- ・困っていることは何か？あなたの幸せな状態はどれに近いか？こどもを含む市民にアンケートを取ってはどうか（赤ちゃんはしゃべれないが）。
- ・子ども達は、今どういったことを考えているのか聴き、そういった声に寄り添って行動したい。
- ・市はこども条例のほか、原山市民公園の遊具整備、駅西など丁寧に意見を聴いていく機会を作っているが、とても大切である。

<年齢区分>

- ・18才や20才という年齢で区切らないようになったのは良かった。
- ・子どもでも枝分かれがあり、幅が広い。
- ・「こども」について、18才や20才といった年齢で区切らないことについて、年齢に応じた対応が必要となる。
- ・「こども」の年齢はいつまでなのか（0才から20才？）。世代やニーズが幅広く、対象が広すぎるため、個々に合わせる事ができるのか、まとめることは難しい。
- ・年齢に関わらず、本人中心であってほしい。
- ・年齢が高くなると支援が薄くなる印象があるため、途切れないサポートが必要である。
- ・青年期の支援が手薄になっており、心配である。

<市の体制に関する意見>

- ・他市のように、「こども未来部」を作ってほしい→児童福祉法の改正に伴い、母子保健と児童福祉を一体化するような組織改正を検討している。
- ・市のなかに高校生を担当する部署がない。

- ・教育委員会事務局で話が止まってしまう、教育委員会に話が届かない。
- ・教育委員会と子育て支援課がタッグを組んでほしい。
- ・市の組織は縦割りではなく、横のつながりを良くしてもらい、赤ちゃんから成年に至るまでの支援を考えてほしい。
- ・条例を作る段階でも、教育、福祉、雇用、医療、若者など各課が関わって作るべき。
- ・大事なことなのに、このメンバーで十分なのか、子育て支援課だけでは担えない大きな問題であり、市役所全課で考えるべき。

<感想や疑問など>

- ・well-being、有機的連携は大切だと感じた。
- ・第1章第3条第6号「子育てに夢や喜びを持てる社会環境」について、日本では子どもを持つことに対し、どちらかと言えば負の感情があると感じるため印象的だった。そのような社会を実現するための具体的な環境を整えていくのは、仕事をしている全ての人の役割となる。
- ・子育てに喜びを感じられるような環境を整えることが大切と感じた。
- ・どんな人でも認められること、皆で考えていくことが大切となる。
- ・こども大綱とは何か？
- ・こども家庭庁は大きな施策を担う。
- ・子育て、結婚、教育、若者支援など、ベクトルがバラバラしている。
- ・保護者が子どもに介入しにくくなっており、時代に即した、子どもに生かされる政策が必要となる。
- ・子ども達は、足が速いよりもゲームが強い方が人気のある時代となっている。
- ・大人が一生懸命、自分達のことを考えてくれていることを、子どもに分かってもらえると良い
- ・親として、どのように子どもたちに伝えていけるのかが大きな課題である。
- ・高山の高校生は、国レベルでは夢や希望が持てていない。
- ・不登校、グレーゾーン、孤立など問題が多様・複雑化し、今の制度から漏れている子どもが大勢居る。
- ・思ったときにふらっと立ち寄れる児童センターでありたい。
- ・支所地域の小中学校では1クラス10人居れば多い方であり、少子化対策を進めてもらいたい
- ・地域の子どもの数が減るなかで、子ども会活動に支障が出ている。
- ・切れ目のない「こどもまんなか」社会、こども施策が重要となる。
- ・「こどもまんなか」であることの素敵さはどこにあるのか？
- ・国レベルでの対策が必要である一方で、市としての対策も進めるべき（財源が必要のため、難しいかもしれないが）。

2. 各立場（地域、こども、親・支援者）から目指す社会の実現に向けて

<well-being>

- ・何が幸せと感じるか、幸福度の感じ方が人によって異なる。→ありのままの自分で居られ、ともに尊重し合って生きていけると良い。
- ・どういう状態になったら well-being なのか？→誰もがありのままに居られること、違いを互いに認め合う社会の雰囲気、安全・安心な場所、目の前の人との関係性が幸せなこと
- ・幸せとは、安心な環境を作ること
- ・価値観の違いを知りたい。
- ・親だけの価値観からの脱却があるべき。
- ・どんな子どもでも、選んだ人生を生きていける。

<場所・機会>

- ・あそび場を増やす、雨や雪の日でも遊べる施設があると良い。
- ・アニメイトのお店がほしい。
- ・駄菓子屋など、友だちと行ける居場所がほしい。
- ・子どもの機会（人数、施設など）を増やしてほしい。
- ・子どもが楽しめることを何かしてほしい。

<情報>

- ・あそび場を見つけるのは、友だちからの情報が多い。
- ・届けたい情報を届けるツールが少ないため、手に取りやすい環境を作してほしい。
- ・DX（デジタルトランスフォーメーション）が必要となる。

<子育て、子育て支援>

- ・楽しく子育てできると良い。
- ・親が幸せだから、子どもも幸せになれる。
- ・子育て中の保護者を支えたい。
- ・妊娠・出産・育児より以前の支援（サポートできる所）も必要となる。
- ・大人が犠牲にならないよう、子どもを支える大人を支える仕組みが必要となる。

<お金>

- ・子ども＝お金がかかるというマイナスのイメージを払しょくする必要がある。
- ・お金が必要となる。
- ・子どもの幸福には、親の貧困の解消などが必要となる。

<地域、つながり>

- ・地域の大人が「子どもを守り育てよう」と意識しあえる地域コミュニティづくりが大切である。
- ・子どもが生き生き、伸び伸びと育っていける社会をつくりたい。
- ・地域のなかで頼れたり、相談できる人や居場所があると良い。
- ・昔のように、気軽に声をかけあえる社会にしよう。
- ・子ども110番の家（安全な場所）がもっと分かりやすくなると良い（トイレを利用させてもらう子どももある）。
- ・子どもが生き生き→親が生き生き→地域が生き生き
- ・地域のなかでの子どもの立場、地域の大人との関りが重要となる。
- ・子どもが幸せなのは、大人や地域など皆が幸せであることが大切である。
- ・保育園の職員は勿論、地域の人たちも含めて皆で「子どもが子どもらしく生きていける保育園」を作っていけると良い。
- ・地域によって意識の格差があり過ぎるため、この取組みをあらゆる場面でPRし、多くの大人が「こども」を意識して生きていく社会を作っていけたらと思う。